

ふるさと再発見 第40回

Rediscovery Omihachiman

たてもの探訪 ①

沙沙貴神社 本殿他7棟

今月からは、市の歴史的な建物を紹介する「たてもの探訪」を始めます。初回は、安土町常楽寺の「沙沙貴神社」です。

NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」ではコミカルに登場した佐々木秀義とその子・佐々木四兄弟ではありますが、実は全国の佐々木一族の基礎を固めたとも言える傑物たちです。

佐々木秀義が惣領の佐々木氏は、佐々木荘（中心は、市内安土町常楽寺、上出、中屋、慈恩寺、小中とその周辺）に本拠を置く、宇多天皇、敦實親王を祖とする軍事貴族です。それまでの佐々木荘は、蒲生郡、神崎郡の古代豪族・佐々貴山氏の流れをくむ佐々貴氏が掌握していま



沙沙貴神社 全景
(沙沙貴神社提供)

したが、力を付けてきた京都出身の佐々木氏と覇権を争うようになりしました。源氏方の佐々木秀義と佐々木四兄弟は、一時期平氏方の佐々貴氏に敗れて関東に逃れました。しかし、源頼朝の挙兵に参加して、鎌倉幕府の成立に伴い、本拠を奪還し、佐々木荘の全体を掌握し、さらに近江守護として近江全体に影響力を持つようになりました。一方の佐々貴氏は、佐々木氏の台頭とともに、その下に入り佐々木荘の一部を所有することになったようです。

この佐々木氏と佐々貴氏、双方の氏神として、また佐々木荘の鎮守として常楽寺に鎮座するのが沙沙貴神社です。創建は不

明ですが、平安時代の延喜式内社にも比定される古社で、織田信長の侵攻により佐々木氏の後裔・六角氏が勢力を失ったのちは、地元常楽寺、上出、中屋、慈恩寺、小中などの人々が氏子となつて現在まで神社を守っています。祭神は少名彦命、大彦命、仁徳天皇、宇多天皇、敦實親王の四座五柱で、広大な境内には本殿を始め多数の巨大な社殿が並びます。特に本殿は正面約9m、側面約5・7mの県内でも長等神社と並ぶ流造としては県内屈指の大きさを誇る前室付五間社流造で、透塀がそれを囲います。横に沿う権殿も正面約5・7mの大型の前室付三間社流造、それに三間四面の

大型入母屋造拜殿、中門があり、その正面を中世の雰囲気を守る茅葺(材料・葎)の楼門、素朴な瓦葺の東回廊、西回廊で固めます。これら8棟は江戸時代中期から後期の建物で、滋賀県指定有形文化財に指定されています。そのうち本殿、権殿、拜殿、中門、透塀は、弘化3(1846)~1848)年に、佐々木氏の後裔の丸亀藩主・京極氏が出資して再建したもので、佐々木一族と神社の結束の強さが伺えます。またこの良質の社殿を作った大工の棟梁は常楽寺の水原源四郎俊勇、瓦大工は小中の光定清三郎で、当時の地元技術の高さが伺えます。



沙沙貴神社 楼門正面

人口と世帯 令和4年3月1日現在 ()は前月比

総数	81,983人	(-33)
男	40,274人	(-31)
女	41,709人	(-2)
世帯	34,681世帯	(-4)

※外国人住民(40か国・地域/1,581人)を含みます。

新型コロナウイルス関連の情報は、市ホームページをご覧ください

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本紙掲載の催しが急に中止や延期になる場合があります。開催の可否は事前に担当課または主催者へご確認ください。また、最新情報は、市のホームページ <https://www.city.omihachiman.lg.jp/> で随時発信しておりますので、ご確認をお願いします。